

創設まで

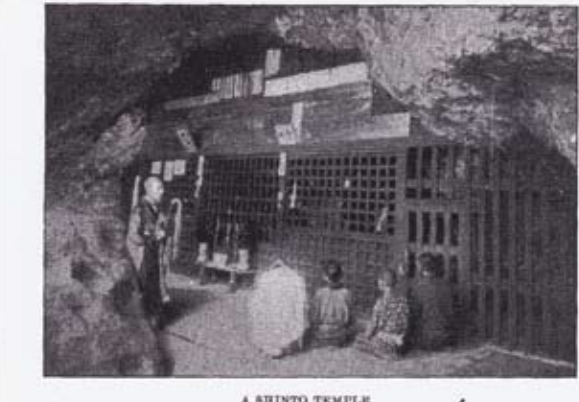
ルーテル教会の日本伝道とC.L.ブラウン博士

紫苑会治療所の待合室と診療所(大正期)



大正期の紫苑会治療所の待合室と診療所の様子です。「百年史の証言」 福田令壽氏と語るより。

ブラウンが紹介した神道の寺院



TIDINGS(1906.2) 熊本市の金峰山西蔵、霊瀧洞(岩戸観音・雲瀧瀑布)ブラウンは、日本で宣教活動をしている場合に、日本人の宗教や文化、風俗についても調査、研究をしました。銅豪宮本武蔵が、寛永20(1643)年ここに寄り、会得した剣術一致の境地を「兵法五輪書」に書き残した所としても知られています。

ブラウンとスタイワルトを囲んで(路帖熊本教会員)



1909(明治42)年、路帖神学校を開校した頃から、中央のブラウンとスタイワルトを囲んで路帖熊本教会員が並んでいます。左端に山内直丸牧師。

日本福音ルーテル教会伝道 20周年記念祝賀会



1913(大正2)年4月には、日本福音ルーテル教会伝道20周年記念祝賀会が佐賀で開催されました。宣教20周年に、最初の教会憲法規則が制定されました。初めての調査では、信徒総数557人、宣教師を含む教役者22人、伝道地17ヶ所、内地教会8でした。ブラウン、スタイワルト、ウィンテル、遠山参良らの姿もあります。

日本ルーテル教会宣教師とその家族



『創立二十年記念史』TIDINGS,1913.3
この宣教師と家族たちが、ルーテル教会の日本伝道の担い手となりました。最前列左より、ペーパー、メイリハー、スタイワルト、スミス、バイネット、リバー、アルフレッド、ブライアン、リバー、マーンケル、ブラウン。前から2列目の子どもは左から、フェイス、リバー、マリ、ア、ウィンテル、ルイス、リバー、クリステン、ウィンテル、ネリー、ウィンテル。3列目の夫人たち左から、ホルン夫人、ウィンテル夫人、ブラウン夫人、リバー夫人、ミラー夫人、ニールセン夫人。最後列の男性左より、ホルン、ミラー、ニールセン、ウィンテル、ブラウン。「創立二十年記念史」(1914年大正3年)、TIDINGS,1913.3より。

熊本教会 1915(大正4)年頃 ブラウン夫妻の姿も(「ブラウン伝記」)



1915(大正4)年6月下旬、ブラウン夫人は、日本の長崎で生まれた長男チャールズ・フレッド、熊本で生まれた次男ロバート・マシューと三男リチャード・ハーレーを連れて、先に福岡の途に着きました。翌年の1916(大正5)年3月5日、ブラウンは、熊本教会の主日礼拝で、九州学院生徒宮原軍蔵以下19名に洗礼式を施しました。3月18日、ブラウンの送別会が熊本教会で開かれ、3月24日午後1時20分、150名の送りを受け、上熊本駅発の汽車で熊本を立ちました。ブラウンは再び熊本へ帰って来ることはありませんでした。柳が花に成る教会として知られています。

ブラウン使用の聖餐用具



この聖餐用具を使って、ブラウン宣教師は聖餐式を執り行っていました。

1905(明治38)年6月20日 路帖熊本教会堂、竣工し献堂 (Katherine Scherer Memorial Church)

1905(明治38)年6月20日、熊本教会の教会堂が竣工し、同日午後3時から献堂式が行われました。ブラウンが司式、山内直丸とリッパードが聖書を奉読、ウィンテルが献堂の祈禱をささげました。次いで山内直丸の牧師就任満10周年を祝賀し、山内は献堂説教をしました。参列者は授勢90名に達しました。入口右側にブラウン、左側に山内直丸が立っています。新しい教会堂は、キャサリン・シェラー・メモリアル・チャーチと名づけられました。ブラウンの「Japan for Christ」(1909年11月)より。

日露戦争(1904.2~1905.9)と熊本教会

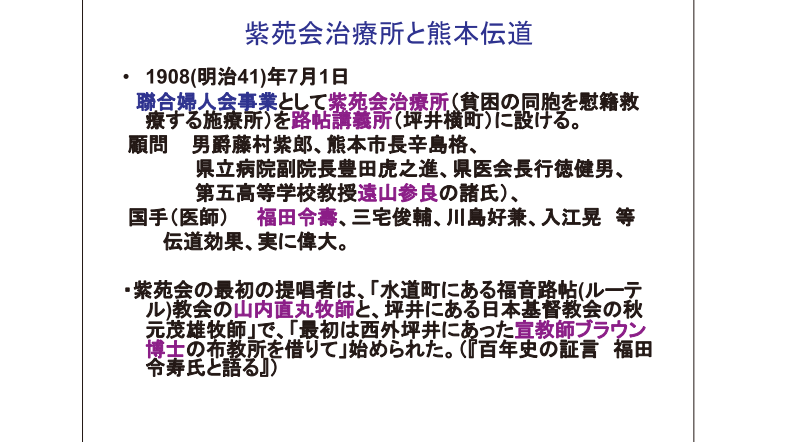


完成したばかりの真新しい熊本教会堂の礼拝に、日露戦争の捕虜となったロシア兵の福音ルーテル教会員が参列しました。このロシア兵の捕虜は、フィンランド人ではなかったかと推察されます。ロシア人=ロシア正教、フィンランド人=ルーテル教会

熊本宣教とスタイワルト



1906(明治39)年1月、A.J.スタイワルトが宣教師として熊本に着任。



熊本会聯合婦人会の事業として、「紫苑会治療所」が熊本教会の講義所に設けられました。山内直丸牧師が提唱し、福田令壽医師や遠山参良五高教授などが協力しました。



ブラウン一家は休暇で一時帰国しますが、ブラウンは熊本にミッションスクールを設立するために奔走します。日本へはスミス宣教師を伴って、1908(明治41)年9月15日にサンフランシスコからモンゴリア号で出航し、10月6日に長崎に到着。10月11日夕方、佐賀を経て熊本に帰りました。TIDINGS,1908年9月号と11月号より。



ブラウンが不在の間、ミラー宣教師が伝道に従事しました。ブラウンが帰任すると、ミラーは博多に転じました。ミラーが使ったコダック製カメラ、TIDINGSより。

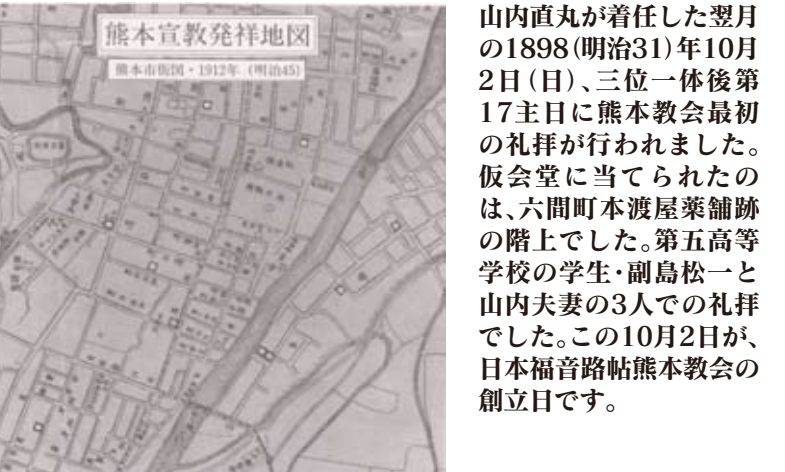
1898(明治31)年9月27日 山内直丸、熊本着任。 山内牧師と家族(Japan for Christ)



1898(明治31)年9月27日、山内直丸牧師が熊本に着任。日本人の教役者(牧師)によるルーテル教会の布教が始まりました。相敬山出身の鈴木直丸は、明治学院神学部本科に入学者、山内直丸の深川教会に転籍し神学校を卒業。山内直丸の招聘を受け、「佐賀十字教会」に赴任。明治29年、シェラー司式のもとに山内家の令嬢あやと結婚し、山内直丸となりました。そして、ルーテル教会の教役者(牧師)として、南部一致シノドの新たな伝道拠点となる熊本に着任したのでした。「佐賀十字教会」は、1898(明治31)年6月に「日本福音路帖教会」と改称されました。

熊本教会と熊本宣教

1898(明治31)年10月2日 山内直丸夫妻と五高生別島松一の三人で熊本最初の礼拝 六間町本渡屋築舗跡の階上



山内直丸が着任した翌月の1898(明治31)年10月2日(日)、三位一体後第17主日に熊本教会最初の礼拝が行われました。飯倉堂に当てられたのは、六間町本渡屋築舗跡の階上でした。第五高等学校の学生・別島松一と山内夫妻の3人で礼拝でした。この10月2日が、日本福音路帖熊本教会の創立日です。

ブラウン熊本在留最初の宣教師として家族と



1900(明治33)年12月14日新屋敷飯家「タイディングス」1906年1月号に掲載されたブラウン一家。長男チャールズ・アルフレッドは長崎で生まれ、次男ロバート・マシューは1902(明治35)年4月1日熊本で誕生。熊本にやって来たときは、まだ3人でした。

新屋敷 338 番地の宣教師館



ブラウンが伝道活動の拠点とした宣教師館。ブラウンの「Japan for Christ」(1909年11月刊行)より。

伝道活動中のブラウン宣教師



C.L.ブラウンは、路帖熊本教会の宣教師として伝道活動に従事しました。熊本教会の伝道所前。「基督教傳道史」の案内をしているところ。

熊本日曜学校のメダリストたち



メダルをつけて誇らしげる熊本日曜学校の生徒たち。日曜学校に休まずに続けて来た熊草のメダルを胸につけています。ブラウン宣教師が、「はい、神様の前で胸を張って!」と言って、カメラを向けている様子が伝わってきます。「タイディングス」1908年3月号より。

ブラウン博士の墓(現地リベリア)



ブラウン博士の亡骸が埋葬されたリベリアの現地に墓が建てられました。

Brown Memorial Chapel 1925(大正14)年2月竣工



九州学院が創立されて4年後、ブラウンが亡くなって4年後の1925(大正14)年2月、海外伝道局の支援によりブラウン記念礼拝堂(Brown Memorial Chapel)が竣工し、献堂されました。このヴォーリズ建築による礼拝堂は、九州学院のキリスト教主義学校としての今に至るまでの歩みを見届けてきたのでした。

ブラウン博士顕彰のプレート



ブラウン記念礼拝堂の正面右の壁に、ブラウン博士を顕彰するプレートが掲げられています。そこには、旧約聖書のダニエル書の12章2節の聖句が掲げられています。

1893(明治26)年佐賀で伝道開始



アメリカ南部一致ルーテル教会の日本伝道は、120年前の1893(明治26)年、佐賀で始められました。佐賀には1901年、日本で最初のルーテル教会の礼拝堂が建造されました。この礼拝堂は、現在、日本福音ルーテル教会志気館(熊本県)に移築されています。

南部一致シノド派遣の二人の宣教師



ジェームズ・シェラー 1892(明治25)年~1896(明治29)年
ロバート・ビーリー ~1903(明治36)年
南部一致シノドからJ.A.B.シェラーとR.B.ビーリーの二人の宣教師が派遣され、佐賀で伝道が始まりました。シェラーは、神経衰弱と思われる病のため、1896(明治29)年帰国しました。

チャールズ・ブラウン宣教師 日本宣教1898(明治31)年 ~1916(大正5)年



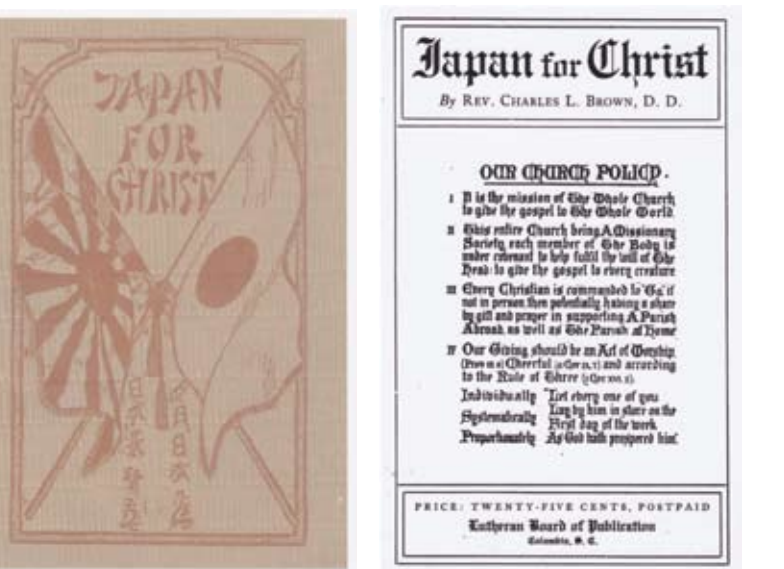
シェラー退任の後を受けて、1898(明治31)年12月、佐賀に着任したC.L.ブラウンは、2年後の1900(明治33)年12月14日、家族と共に新屋敷町435番地に飯高し、熊本在留最初の宣教師として、熊本伝道を開始しました。

九州学院第1回卒業生42名 (ブラウンの九州学院最後の写真)



1916(大正5)年3月11日九州学院第1回卒業生の写真です。5年前の1911年4月、122名人入学し、卒業した生徒は42名でした。遠山院長やスタイワルトとともに写ったブラウンの九州学院での最後の写真です。

『Japan for Christ』



ブラウンは、1909(明治42)年11月に「Japan for Christ」を、ミッションボードの支出により5,000部出版しています。これは、ブラウンが、日本の紹介とミッションについての幅広い理解をしてもらうために、南部一致シノドへの日本報告書として出版したものです。これは、表紙と目次です。

『Japan for Christ』扉の聖句

マタイによる福音書28:19~20
だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。



太平洋の彼方の伝道の地、日本の地図と、扉に掲げられた聖句です。

思い出深い熊本教会の日曜学校

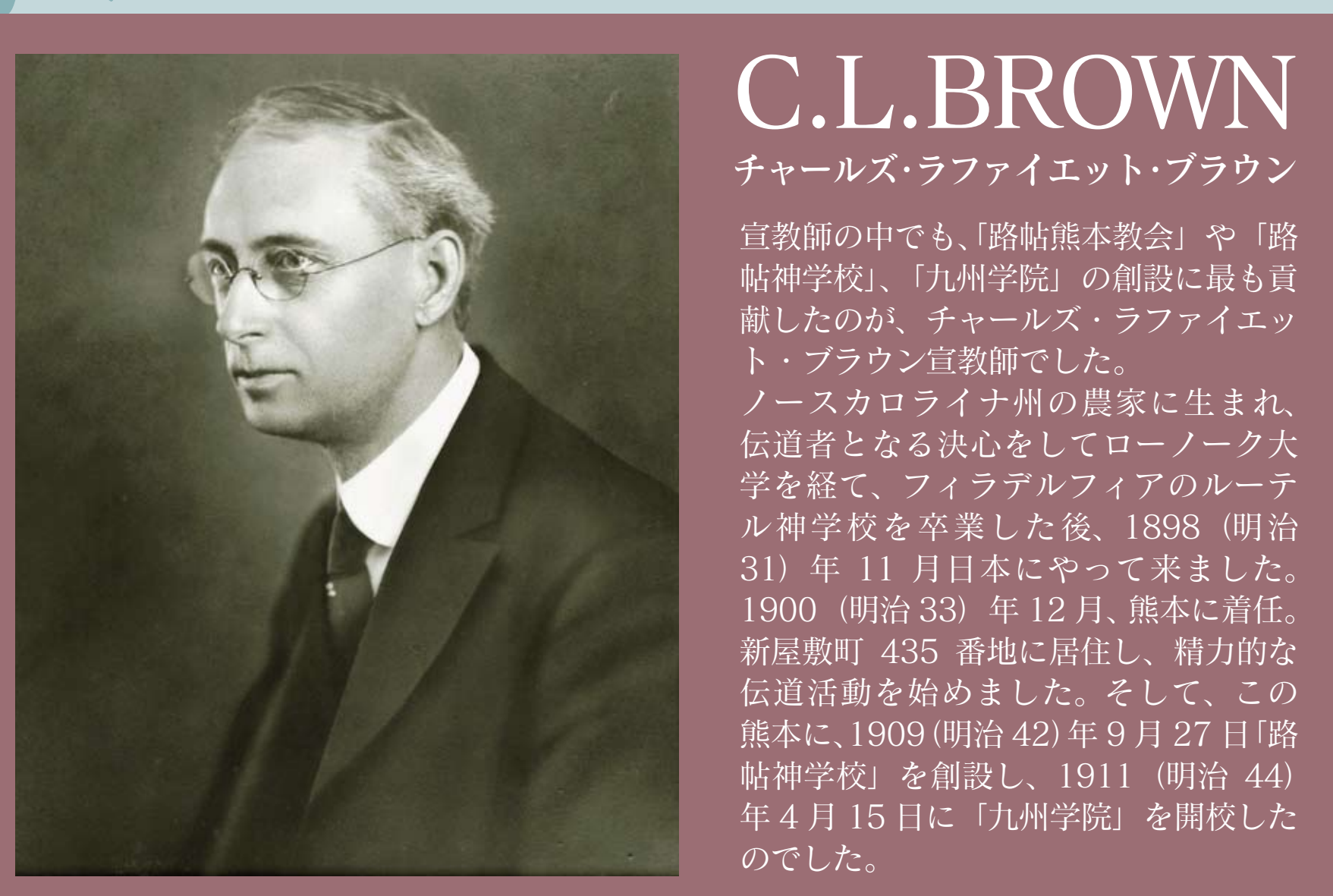


思い出深い熊本教会の日曜学校の写真です。ブラウン夫人を始め、婦人伝道者・安達よし子さんや五高の学生(五高花壇会第八回生:江崎寛か。ブラウン2度目の在任中にブラウンから受洗。)と思われる人物、そして日曜学校の愛しい子供達を、ブラウン宣教師が撮った写真です。コダックカメラで撮ったようです。1915(大正4)年6月末、ブラウンは韓国へと、翌年42歳で南部一致ルーテル教会外国伝道局の総理事(書記)に選出され、2年半事務局で働きました。ブラウン一家は、その後再び日本を訪れることはありませんでした。

アフリカ西海岸リベリアで召天 (ブラウンの旅路)



1921(大正10)年4月、ブラウン宣教師は全米キリスト教協議会からの要請を受け、インドを経てアフリカへと向かい、アフリカ西海岸のリベリアの伝道推進者活動に従事しました。1921(大正10)年12月5日、伝道地リベリアの現地で、合併症を伴ったマラリアにかかり、47歳で天に召されました。



『九州学院要覧』に掲載された最初のキャンパス計画鳥瞰図



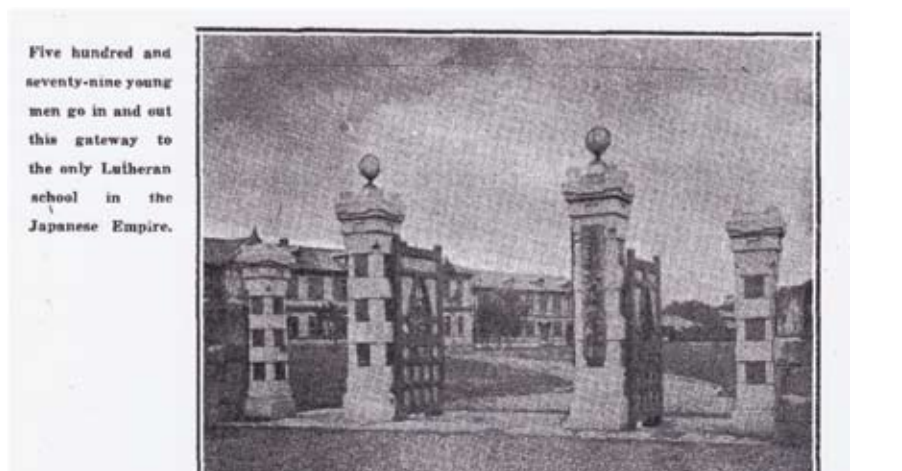
九州学院要覧(1913年・大正2年)に掲載された最初のキャンパス計画の鳥瞰図です。本館と宿舎舎、食堂、院長住宅などは予定通り建てられました。神学校舎を含むチャペルは、ブラウン在任中、計画通りに建つことはありませんでした。

ここにチャペルが建つのを待ち望む九州学院の教授陣と400人の生徒たち



1914(大正3)年4月に撮影され、「タイディングス」6月号に載った写真です。チャペル建設予定地に九州学院の教職員と400名の生徒たちが立ち並び、アメリカのルーテル教会の会員に対し、支援をお願いをしているところです。遠山参員院長を始め、ブラウンやスタイワルト、九州学院神学部の教授陣もいます。チャペル建設は、九州学院の創設以来、懇請され続けていたことでした。

九州学院の創設時の正門(唯一現存・東門)



『日本帝国における唯一のルーセランスクール』毎日579人の若者が出入りしている人口と紹介しています。活ける神の栄光のために建設されたすばらしい教育機関への入口であり、「神のこぼ」を学ぶ学び舎への門だと記しています。ブラウン自身、この門を通過して、九州学院神学部が建設された九州学院と、宣教師館のあった新屋敷町や熊本教会のあった水道町を歩き来っていたのです。